

山梨県北巨摩郡高根町

丘の公園入口遺跡

過疎代行事業町道拡幅事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1999. 3

高根町教育委員会
韮崎土木事務所



図版1 現地周辺航空写真

序 文

高根町は、山梨県の北西部に位置し長野県と接する、青空と水と緑の八ヶ岳南麓に広がる高原の町です。町内には、原始から古代・中世と続く遺跡が数多く発見されており、中でも町の中心部あたりから南部地域にかけては遺跡集中地域として分布図上でも、発掘調査によっても確認されております。

標高1000mを越える当遺跡を含む清里地域は、観光と農業=高原と牧畜・野菜の町として整備を進めており、清里の森・丘の公園などが県公営企業局等により開発され、それに伴いいくつかの先土器時代の遺跡が調査されております。

また、この地は昭和13年に東京都上水道水源小河内貯水池の建設にあたり、丹波山村・小菅村両村の水没犠牲農家中28戸が八ヶ岳地区に集団入植されています。

このように、昭和に入ってからの開発が顕著ではありますが、土中に残された人類の足跡は、町内のどこよりも早い時代の出土遺物が確認されております。

昭和61年度に当教育委員会で行った分布調査によれば、清里地域内では33ヶ所の遺跡が確認されていますが、当遺跡は今回初めて確認されたものであり、この地域の歴史解明の一助となれば幸いです。

発掘調査にあたりまして土地所有者をはじめ関係者の皆様に有形無形のご迷惑をおかけしましたが、ご協力いただきましたことに対し、深く感謝申し上げます。

平成11年3月30日

高根町教育委員会

教育長 坂 本 基 可

例　　言

1. 本報告書は、山梨県北巨摩郡高根町清里中清里行政区朝日丘班区域内で、過疎代行事業町道下念場朝日丘線改良工事に先立ち、発掘調査を実施した丘の公園入口遺跡の報告書である。

なお、当該地の小字名は念場原であるが、当地域は広範囲にわたるため、場所の特定と混乱を避けるため命名した。

2. 本調査は、韮崎土木事務所との委託契約により高根町教育委員会が実施した。

3. 発掘調査にあたった組織は次のとおりである。

調査主体　高根町教育委員会

調査担当者　高根町教育委員会社会教育係文化財担当　兩宮正樹

調査事務局　高根町教育委員会事務局

4. 発掘調査によって得られた出土遺物・記録図面及び写真等は、高根町教育委員会で保管している。

5. 発掘調査及び本書作成にあたり、次の諸先生方・諸機関よりご指導・助言・協力をいただいた。記して感謝申し上げる次第である。（順不同・敬称略）

小野正文、森原明廣、保坂康夫、谷口彰男、山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センター、韮崎土木事務所、北巨摩市町村文化財担当者会

凡　　例

1. 縮尺は、各挿図ごとに示してある。

2. 方位は、磁北を示している。

目 次

序 文

例 言

第1章 調査状況	1
I. 調査に至る経緯と経過	1
II. 周辺の地形	1
III. 周辺の地質	1
IV. 遺跡の立地	3
V. 周辺の遺跡	3
VI. 調査方法	3
第2章 調査の成果	6
I. 遺構	6
II. 遺物	6
第3章 小括	7

挿図目次

第1図 遺跡位置図	2
第2図 調査地域位置図	4
第3図 全体測量図	5
第4図 出土土器実測図(1/1)	8

写真図版目次

図版1 現地周辺航空写真	巻頭
図版2 第1図 表土除去分(北より)	10
図版3 第2図 表土除去分(南より)	10
図版4 第3図 表土除去分(北より)	11
図版5 第3図 表土除去分(南より)	11
図版6 第4図 表土除去分(北より)	12
図版7 第4図 表土除去分(南より)	12
図版8 第5図 表土除去分(北より)	13
図版9 第1号土坑	13
図版10 出土土器(おもて)	14
図版11 出土土器(うら)	14
図版12 出土土器(表面状況)	15
図版13 出土土器(縄文圧痕)	15

第1章 調査状況

I. 調査に至る経緯と経過

国道141号線（佐久甲州街道）から山梨県企業局の経営する丘の公園を経由して、キープ協会やJR小海線の清里駅までいたる町道は、昭和初期に開通した幅員狭小の道路であり、観光シーズンともなると交通量が増加し、通行の妨げともなっていた。

継続的に道路の改良を行ってきたが、沿里バイパスの開通とともにその利用状況が激しくなってきたため、過疎代行事業として韮崎土木事務所により道路の改良が行われることになった。

韮崎土木事務所と町による基本設計が行われ、平成10年2月にこの計画に基づき高根町教育委員会が試掘調査を実施した。

その結果に基づき、山梨県学術文化財課・韮崎土木事務所で協議を行い調査は高根町教育委員会により平成10年8月に発掘調査を行い、終了後引き続き整理作業を行い、報告書作成にいたった。

II. 周辺の地形

高根町は、山梨県の北西部に県境として聳えている八ヶ岳の南麓に広がる高原の町である。この山は、日本列島を東西に二分する大地溝帯上（フォッサマグナ）に噴火した火山性の山であり、噴出物の特性のため裾野は比較的なだらかな地形（台地状をています）であるが、町内東部は飯盛山火山群に属するため、この周辺はやや急峻である。

八ヶ岳からつづくこの台地は、国道141号線の韮崎から小諸へ抜ける途中の弘法坂付近で合流する大門川と川俣川によって2つに区分することができ、北側は標高約1,000m以上の並高山帯に属し、南側は標高約600mから約900mの範囲で高根町の主要部を占め、基幹作物は水稻等を主としている。

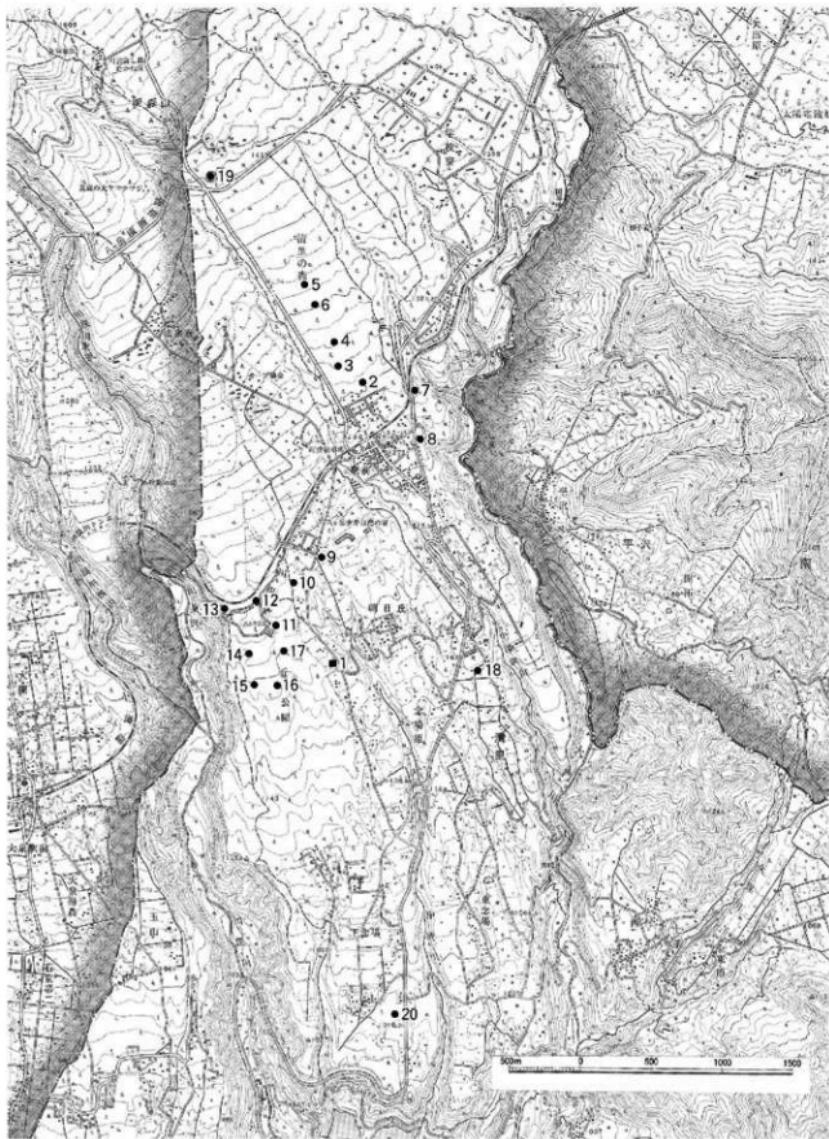
町の東は八ヶ岳の主峰赤岳を水源とし南流する川俣川・大門川（須玉川）によって、激しく侵食された比高差約100mを測る垂直に切り立った崖が20数km南北につづき、北には前述の南北に折り重なるように列になつた八ヶ岳連峰によって、隔離された地域となっている。

唯一開けた西側も隣町である長坂町及び小瀬沢町の西側を南流する釜無川（富士川）によって隔離されているが、この両河川に挟まれた台地は、比較的緩やかな南傾斜であり、前述の両大河川に合流している。

III. 周辺の地質

八ヶ岳は、本州を中央で二分する大地溝帯=糸魚川静岡構造線上に噴火した火山群で、その生成時期は地質年代で第三紀末から第四紀の洪積世前期といわれ、形成している熔岩はいわゆる輝石安山岩類で標高1,000m以上に分布し、それ以下の広大な山麓の斜面は、熔岩の粉砕物や、噴火による堆積物からなる火山質腐植土の黒褐色をした表土が覆っている。

標準的な土層堆積状態は上から、黒色:=耕作土（20~40cm）、ローム層（3~4m）、木曽御岳山を起源とする細粒軽石屑いわゆる鹿沼土が（40~60cm）、白色系粘土層（10~20cm）、暗赤褐色膠粘土層（八ヶ岳火砕泥流）となる。



第1図 遺跡位置図

IV. 遺跡の立地

当遺跡は、国道141号線（佐久甲州街道）の清里東念場で分岐する町道下念場朝日丘線を丘の公園方面に進むと、県企業局のレジャー施設でもある丘の公園ゴルフ場入り口のすぐ北の標高約1,200mを測る南に緩やかに傾斜する斜面に立地している。

遺跡が所在する台地は、南北方向に比高差約5m前後を測る起伏が連続し、地形的に浅い沢が形成されている状況が読み取れる。現地は、牧草地として開墾され大型機械による農作業が頻繁に行われていることから、開墾当初と比べると地形的に異動があったと思われる。

V. 周辺の遺跡

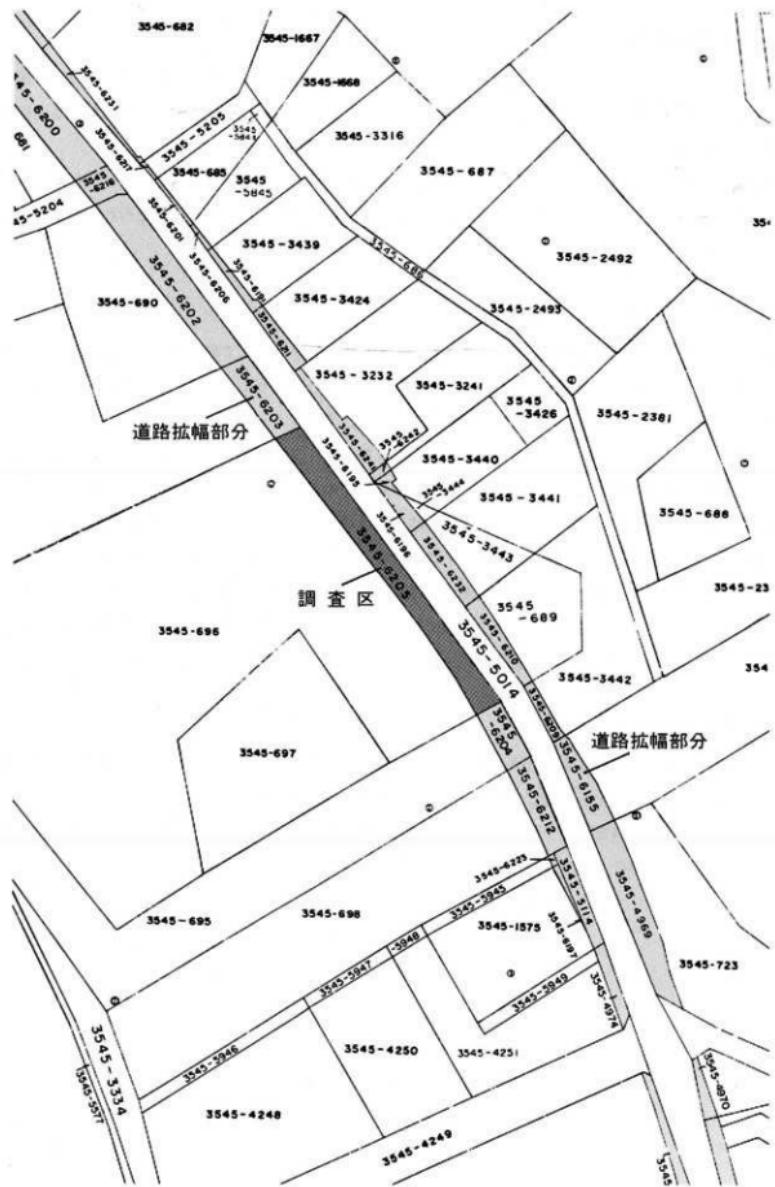
八ヶ岳南麓の広大な裾野の出発点である当地域は、JR小海線を境として現在でも県有地となっており、一部を除いて人の手が入っていない原生林となっている。前述したようにこの地域の活性化として諸施設が建設され、そのおりにいくつかの遺跡が発見され、調査されている

当遺跡が立地する八ヶ岳南麓は、その豊かな大地と水等により先史時代から多くの遺跡が存在する。本遺跡を含む主要な時期である先土器時代から縄文時代中期及び中世にかけての遺跡を概観してみると(第図) 1は丘の公園入口遺跡、2は清里バイパス第1遺跡、3は清里の森第1遺跡、4は清里の森第2遺跡、5は清里の森第3遺跡、6は清里の森第4遺跡、7は念場原A遺跡、8は念場原B遺跡、9は朝日ヶ丘A遺跡、10は朝日ヶ丘B遺跡、11は丘の公園第6遺跡、12は丘の公園第1遺跡、13は丘の公園第7遺跡、14は丘の公園第2遺跡、15は丘の公園第4遺跡、16は丘の公園第3遺跡、17は丘の公園第5遺跡、18は念場原F遺跡、19はからまつ湖遺跡、20は伝仁王屋敷遺跡が所在する。

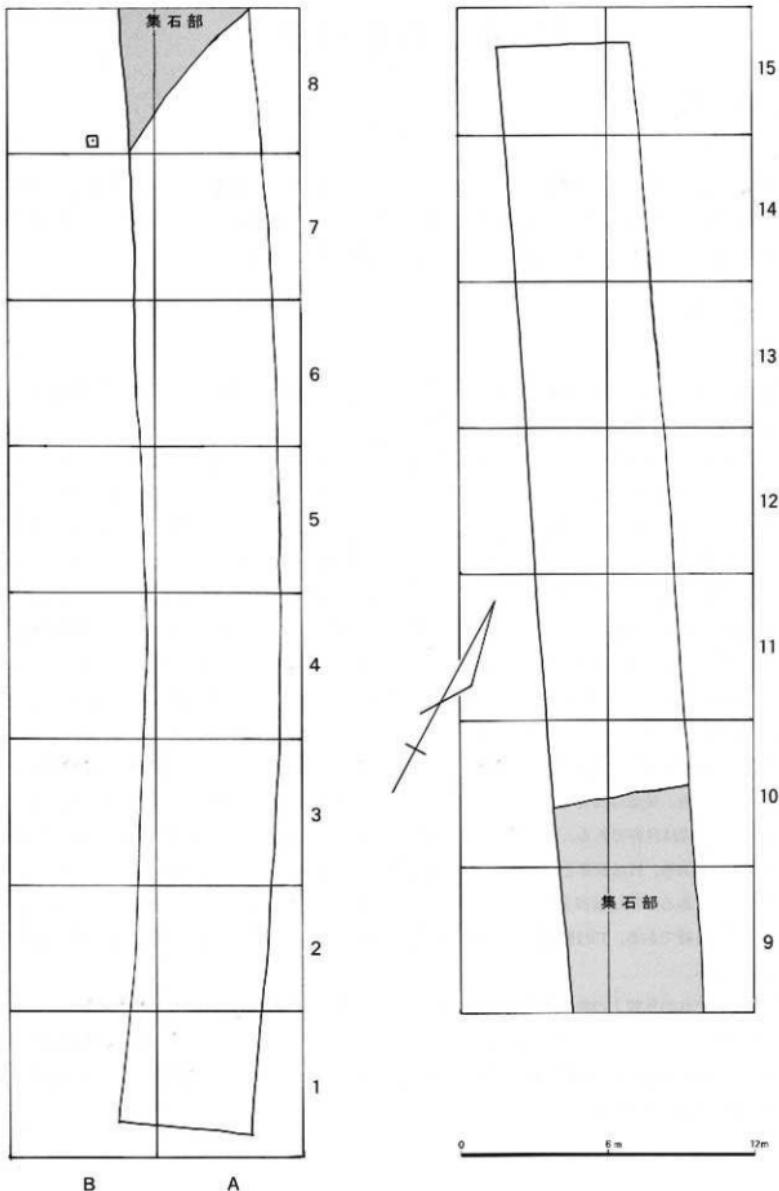
VI. 調査方法

試掘調査の結果により工事対象面積の全域から遺構の広がりが確認されたことにより、面積が広範囲であるため、重機によって表土を除去し、遺構の確認及び掘り下げは人力によって行った。

遺跡内に任意で10m四方のグリッドを設定し、その巾を4等分して5mをサブグリッドとして遺構の確認状況に合わせて調査を行った。



第2図 調査地域位置図 (1/1000)



第3図 全体測量図 (1/200)

第2章 調査の成果

I. 遺構

1. 土坑

調査区域内のほぼ真中で1基の小土坑が検出されている。調査地域が現況では牧草地であるため耕作による障害物があった場合、機械の破損を防ぐために掘り起こしたとも考えられる。遺構覆土中から遺物の出土ではなく、比較的浅い埋込みであったため、その可能性が認められる。

II. 遺物

1. 土器

遺物の出土状況は、ローム層直上現地表面下約30cmから散乱したような状況で、1m四方の範囲から出土している。出土している遺物は土器のみである。

試掘調査・本調査を含め確認できた遺物は総点数で25点である。その内図化できたものは以下の13点であった。(1, 2, 3, 4, 5, 6は試掘調査、7, 8, 9, 10, 11, 12, 13は本調査により出土)

1は胴部と思われ外面は赤褐色、内面は暗赤褐色で、胎土は緻密であり、砂粒を含み、焼成は良好である。2は胴部と思われ内外面ともは赤褐色で、胎土は緻密であり、砂粒を含み、焼成は良好である。3は胴部と思われ外面は赤褐色をていし、2か所に等間隔で施されたと思われる米粒大の凹みがある。内面は暗赤褐色で、胎土は緻密であり、砂粒を含み、焼成は良好である。4は胴部と思われ外面は赤褐色、内面は灰赤褐色で、胎土は緻密であり、砂粒を含み、焼成は良好である。5は胴部と思われ内外面ともは赤褐色で、胎土は緻密であり、砂粒を含み、焼成は良好である。6は胴部と思われ内外面ともは赤褐色で、胎土は緻密であり、砂粒を含み、焼成は良好である。7は胴部と思われ内外面ともは暗赤褐色で、胎土は緻密であり、砂粒を含み、焼成は良好である。8は胴部と思われ内外面ともは暗赤褐色で、胎土は緻密であり、砂粒を含み、焼成は良好である。9は胴部と思われ内外面ともは暗赤褐色で、胎土は緻密であり、砂粒を含み、焼成は良好である。10は胴部と思われ内外面ともは赤褐色で、胎土は緻密であり、砂粒を含み、焼成は良好である。11は胴部と思われ外面は暗赤褐色、内面は暗褐色で、胎土は緻密であり、砂粒を含み、焼成は良好である。12は胴部と思われ外面は赤褐色、内面は暗黄赤褐色で、胎土は緻密であり、砂粒を含み、焼成は良好である。13は胴部と思われ内外面ともは灰褐色で、胎土は緻密であり、砂粒を含み、焼成は良好である。

以上それぞれの外観上の特徴を述べてきたが、共通する要素として特に外面には植物と思われる極細の纖維状の痕跡がうかがうことができ、内面についても2の土器にはその特徴が顕著である。土器の整形についても外面は丁寧になでられているようであるが、外面については一部分にその傾向がみられるのみであり、同一個体である可能性がある。

第3章 小括

調査区域は300m²という、ごく狭い範囲で遺物の出土範囲もそれと同様に極小であったため、遺物の確認のみで終わってしまった。しかし、この遺跡を取り巻く周辺で貴重な遺構・遺物が検出されている。

それらの結果については、報告書として発刊されているが、いずれも集落址として確認されているわけではなく、一時的に生活したと思われる遺構がほとんどである。

今回の調査では具体的な遺構が確認されたわけではなく、土器のみが一括して出土したのみであるが、このことは明らかに一時的ではあるが、人の出入りがあったことを示す証左である。

しかも、全体的な遺構の確認が少ないにもかかわらず、断続的ではあるが、縄文時代や中世の土坑=落とし穴が検出されていることである。

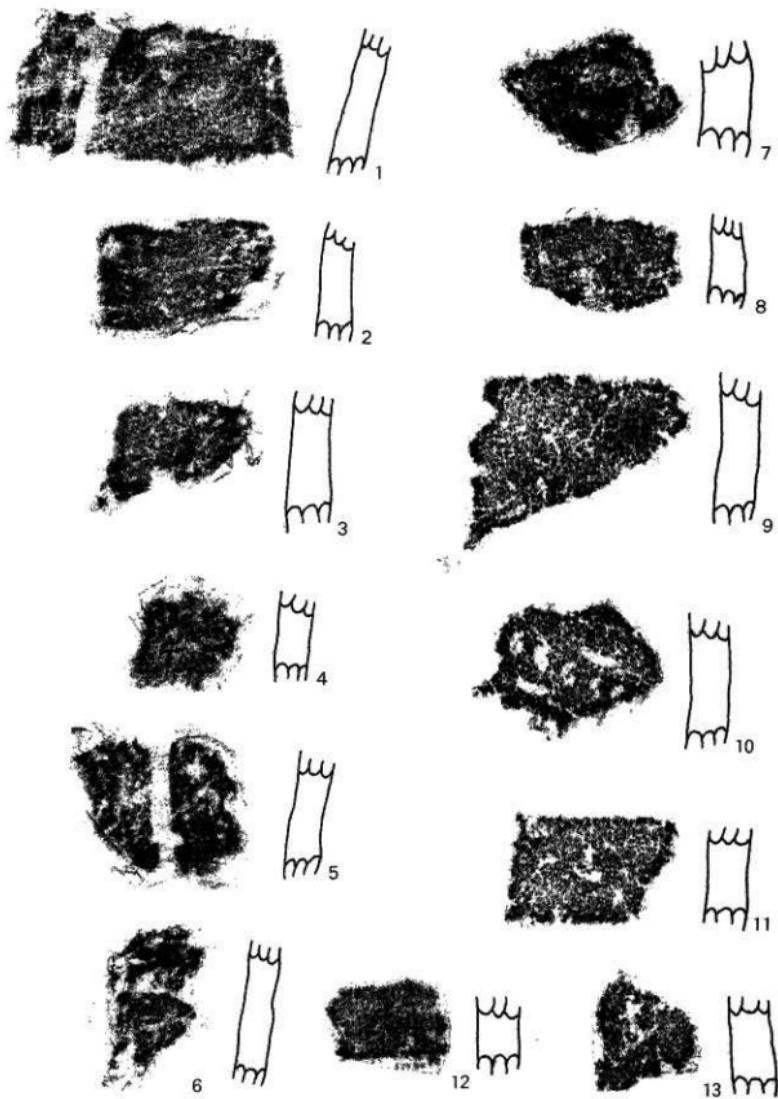
このことは、現在でも地域の利用度を示す証でもある「字名が念場原1字であることからも推定することができる。

古来この地域は、甲斐御牧の一つである柏前の牧の推定地に比定されている。これは当地域のなかに「桙山」と呼ばれる地名が所在すること、その遺名から推測されたことによっている。いずれも推測の域を出るものではない。

遺物について

出土土器の時期については、その時期判定は非常に難しく、胎土及び焼成等から判断すると縄文時代早期から中期にかけての所産と思われ、特定することはできない。

しかも、この周辺から出土している土器の年代は多岐にわたっており、縄文時代早期・中期・後期、弥生時代後期、古墳時代前期、中世が確認されていることから、長年にわたりいく世代にわたって入会地のように活用されていたのであろう。



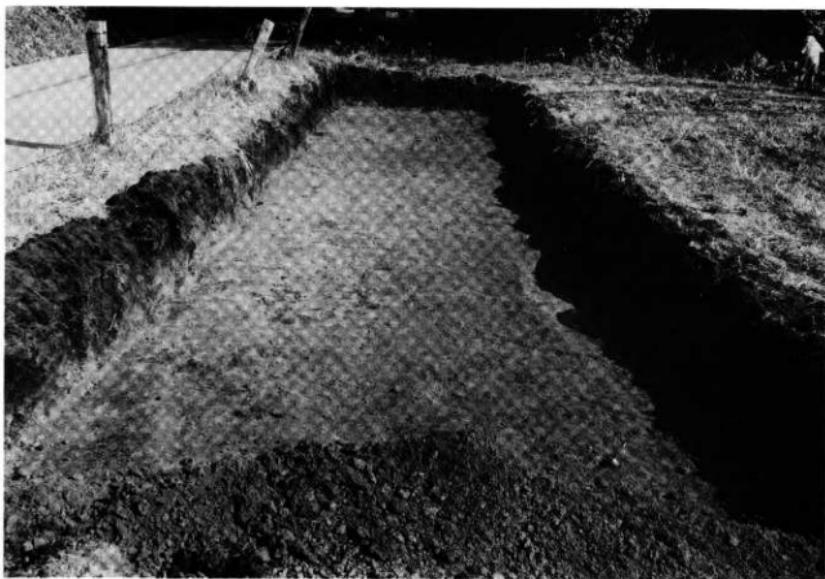
第4図 出土土器実測図 (1/1)

おわりに

丘の公園入口遺跡は平成10年の8月中に調査を行った。いかに高原とはいえ真夏の強い日差しの中、地表温度は想像を絶するものがあり、一服の清涼剤は防風林として現地周辺に残されている松林の木陰であった。しかしそんな過酷な条件の中でも無事調査が終了できたのは、作業員の皆さんとの協力によるものだった。最後に発掘調査及び遺物整理、本書作成にご協力・ご指導をいただいた各位をはじめ関係諸氏に対し、心より厚く感謝申し上げます。

引用・参考文献

- ・角川書店 1984 「角川日本地名大辞典19 山梨県」「角川日本地名大辞典」編纂委員会
- ・山梨県教育委員会 1986 「八ヶ岳東南麓遺跡分布調査報告書」
山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第14集
- ・山梨県教育委員会 1987 「清里の森第1遺跡」山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第32集
- ・高根町教育委員会 1987 「町内遺跡分布調査報告書」高根町埋蔵文化財 第4集
- ・高根町郷土研究会 1990 「高根町地名誌」 高根町郷土研究会編
- ・山梨県教育委員会 1990 「丘の公園第5遺跡」山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第56集
- ・山梨県教育委員会 1997 「清里バイパス1・2遺跡」山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第124集



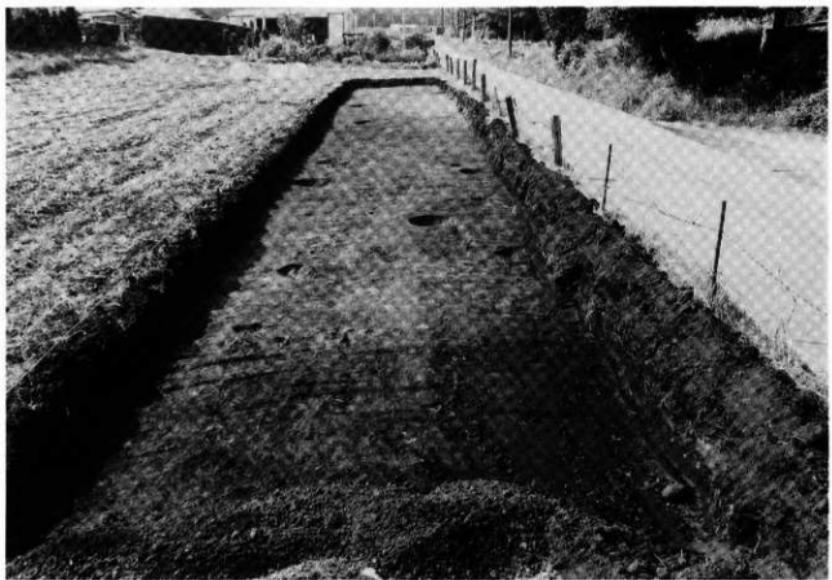
図版2 第1図 表土除去分（北より）



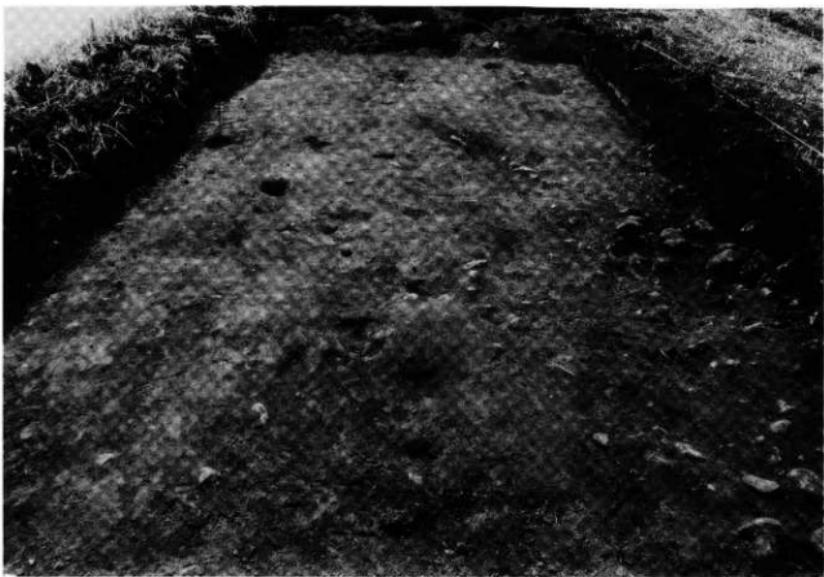
図版3 第2図 表土除去分（南より）



図版4 第3図 表土除去分（北より）



図版5 第3図 表土除去分（南より）



図版6 第4回 表土除去分（北より）



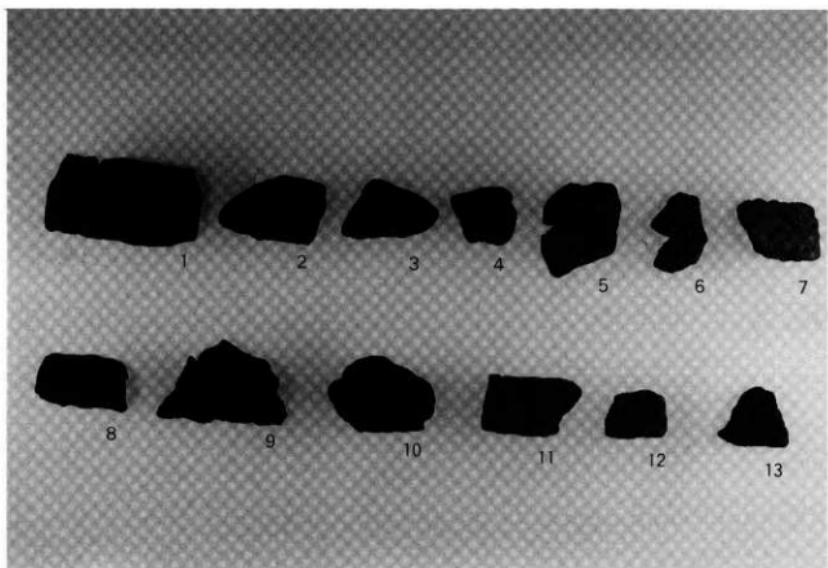
図版7 第4回 表土除去分（南より）



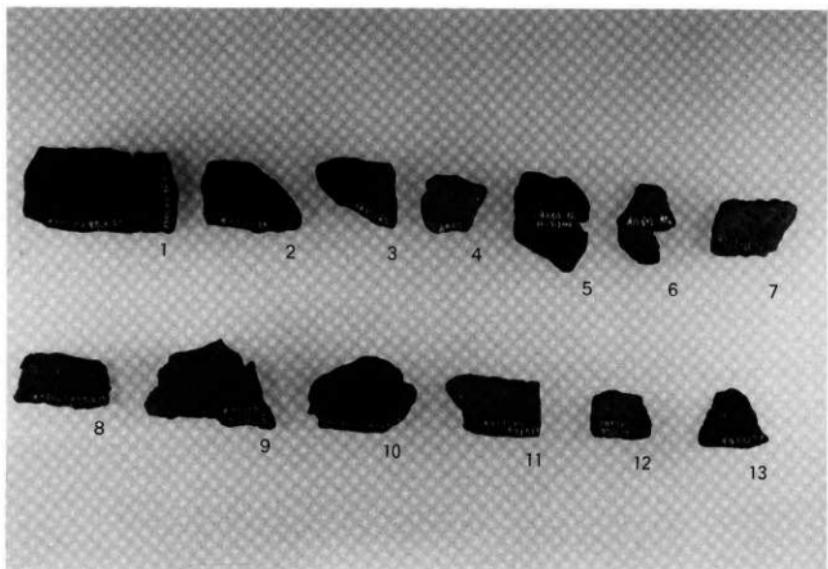
図版8 第5図 表土除去分（北より）



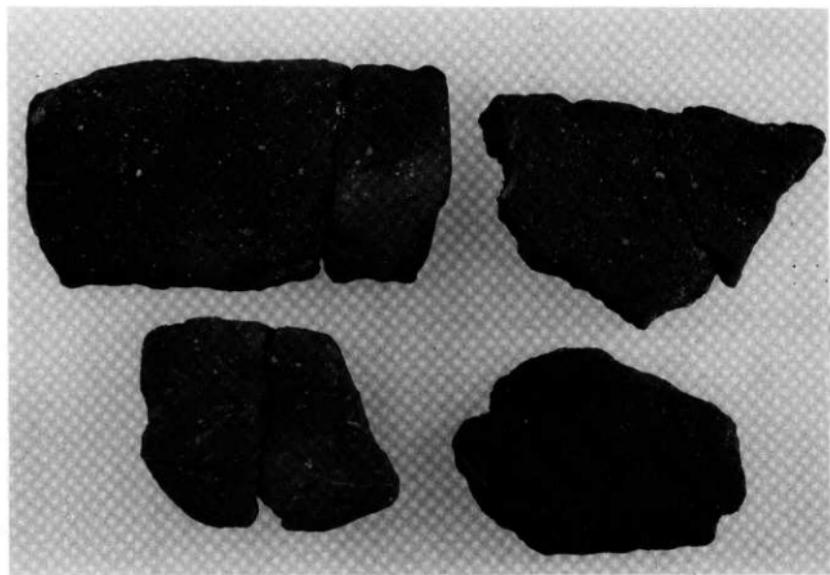
図版9 第1号土坑



図版10 出土土器（おもて）



図版11 出土土器（うら）



圖版12 出土土器（表面狀況）



圖版13 出土土器（繩文圧痕）

報 告 書 概 要

ふりがな	おかのこうえんいりぐちいせき
書名	丘の公園入口遺跡
シリーズ名	高根町埋蔵文化財
シリーズ番号	第13集
編者名	雨宮正樹
発行者	高根町教育委員会
所在地	〒408-0002山梨県北巨摩郡高根町村山北割3261番地 TEL 0551-47-3111
印刷所	〒408-0021山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2313番地 峡北印刷株式会社 TEL 0551-32-3245
発行年月日	平成11(西暦1999)年3月31日
所収遺跡	丘の公園入口遺跡
所在地	山梨県北巨摩郡高根町清里字朝日丘3545-696番地
位置	北緯 35°54'10" 東経 138°26'15"
調査期間	平成10年8月19日～平成10年8月25日
調査面積	約300 m ²
調査原因	町道拡幅改良工事
主な時代	縄文時代早期
主な遺構	土坑1基
主な遺物	土器破片

高根町埋蔵文化財発掘調査報告書 第13集

丘の公園入口遺跡

1999年3月25日 印刷

1999年3月31日 発行

編集・発行 高根町教育委員会

山梨県北巨摩郡高根町村山北割3261
TEL 0551-47-3111

印 刷 峡北印刷株式会社

山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2313
TEL 0551-32-3245

